

拝啓

1. いつも楽しく貴局の番組を拝見しております。地デジ、BS を問わず特集番組には視聴者の関心を引き、Quality の高い番組が多く、公共性のある放送局として民放の追隨を許さない貴局の質の高い報道姿勢を高く評価しております。
今回、多くの会員から問題提起がありましたのでお伝えいたします。

私ども「邪馬台国の会」は昭和 58 年に発足した会員数約 1620 人（平成 26 年現在）の古代史愛好家の集まりで、毎月安本美典先生を始めとして多くの講師の先生をお招きして、これまで 300 回以上の講演や最新の話題の提供を行って頂いております。

2. ところで、最近の番組ですが、1 月 24 日に BS プレミアムにおいて、特集番組として“**偉人たちの健康診断・選「女王・卑弥呼のカミカミ健康法」**”が放映され、興味深く拝見しました。

本番組の主題は、「魏志倭人伝に百歳まで生きると記された弥生時代人の健康長寿の秘密を最新の考古学調査から明らかにする。」というもので、現代人から見ても大変参考になる医学的知見が多く紹介されている点、大変有益であったと思われま

3. しかしながら、1 点だけ問題に思われる部分があり、せっかくの優れた番組が画竜点睛を欠く結果にならないか残念な思いをいたしました。
それは、「**邪馬台国が大和にあり卑弥呼が纏向に居たことを前提に番組を編成していた点です。**」 具体的な点は次の通りです。

(1) 本番組では、魏志倭人伝 卑弥呼に触れ、「人々は長寿で百年或いは八、九十年を生きる。」という有名な一文を紹介しています。そして、「弥生時代の長寿の秘密とは一体何だったのでしょうか？」と進行していきますが、突然、「**平成 21 年 3 世紀最大の建物遺跡群の跡が発見された奈良県纏向遺跡**」という口上で同遺跡を映し出します。
そして、「この遺跡から弥生時代の人々が食べていた物の遺物が数多く発見されました。こうした遺物を基に当時の食事を再現してみると、そこに隠された長寿の秘密が見えてきました。」と続きます。

(所感)

- ① 纏向遺跡の遺構を 3 世紀と唱えているのは、邪馬台国大和説の立場に立つ畿内の考古学者及びその影響下にある国立歴史民族博物館が中心ですが、その論拠は、今も紛議を招いています。**不確定な事実であるのに何の説明もなく、畿内考古学者の大本営発表をそのまま番組に流すのはいかがなものでしょうか？**

② 弥生時代の長寿の秘密を探るのに、纏向遺跡の遺物をもとに食事の再現をしています。これは、**纏向遺跡が卑弥呼の時代の遺跡である**ということを誘導したことになります。これも上記同様、始めに纏向遺跡が卑弥呼の時代の遺跡であることを前提とした番組進行になっており、視聴者に**纏向遺跡は卑弥呼の遺跡に該当する**という印象を与える結果となっています。

(2) 本番組では、魏志倭人伝には倭の国は温暖で夏も冬も生野菜を食べていたと書かれていることを紹介し、纏向遺跡では70種類以上の植物の種子が発見されていることを説明しています。

(所感)

これも、始めに纏向遺跡が卑弥呼の時代の遺跡であることを前提とした番組進行になっており、視聴者に纏向遺跡は卑弥呼の遺跡に該当するという印象を与える結果となっています。

(3) 本番組では纏向遺跡で発掘された祭司や儀式に使われた遺物を紹介しています。

番組中「魏志倭人伝には、卑弥呼は鬼道という呪術を使い、民を治めたとあります。この纏向にはそうした呪術を使い儀式を司った巫女のような存在が居たと考えられ、それが卑弥呼である可能性もあるということです。」と巧みな誘導を行っています。

更に、「そんな巫女たちが呪術に使っていたと考えられる重要な物が見つっています。」と思わせぶりなことわりを入れて、2700点にのぼり大量に発見された桃の種を紹介しています。そして、「この乱世を鎮めた卑弥呼の秘密がありそうなのです。」との口上で桃の呪術的な力を紹介し、纏向に桃園の跡が見つかったことも説明しています。

(所感)

呪力のある桃の種が大量に見ついているのだから、鬼道で国を治めた卑弥呼が纏向に居たに違いないとの印象を与える内容です。

これだけの大量の桃を本当に卑弥呼が使っていたのであれば、史実として魏志倭人伝に記述がありそうなものと考えられます。しかし、**魏志倭人伝には卑弥呼が桃を鬼道に使用したこと、桃を食したこと、桃園があったこと等の記載は一切ありません。**

邪馬台国大和説を唱える学者先生は、魏志倭人伝に記載のない事実をもって、あたかも卑弥呼が纏向に居たかの論法をよく用いますが、これは史実に基づかない虚構の思い込みに過ぎないと思われます。

同様のことが、大型の建物遺構が発見されたことを理由に邪馬台国纏向説を唱える大和説の主張にも現れています。**纏向という場所は、日本書紀に記載されている崇神天皇や**

景行天皇の都が置かれた場所なのですから、大型構造物が発見されるのは当然で、それだけで卑弥呼の都と断定するのは極めて軽率な判断と考えられます。

魏志倭人伝には、「楼観」、「城柵」が卑弥呼の居た邪馬台国にあることが明記されていますが、纏向遺跡には、これらの痕跡は一切ありません。魏志倭人伝に記載のない考古学的事実を根拠に、纏向邪馬台国説を主張し、或いは補強することは虚構の論法といわざるを得ません。

(4) 本番組中、番組コメンテーターの一人である石野博信氏（兵庫県立考古博物館名誉館長）と渡辺アナウンサーとの間で以下のやりとりがあります。

渡辺アナ「纏向のある桜井市、あそこに卑弥呼はいたのですか？」

石野氏「ええ、私はそう思っています。ただ、どこにおられたかというのには、もめておられてまして、大和説、九州説、一番遠くには山形説もあって、候補地は一杯ありまして、皆さん熱心です。」

(所感)

石野氏は良識のある方なので、邪馬台国大和説以外にも言及していますが、番組のこれまでの流れが邪馬台国纏向説を前提として進める中で、高名で権威のある石野氏が「ええ、私はそう思っています。」と発言すれば、邪馬台国纏向説が最も有力であるとの印象を視聴者に与えることとなります。また、邪馬台国の所在地を確認するのに、大和説を唱える石野氏だけをコメンテーターに起用するのは、公平性を欠くものと考えます。

4. 以上に鑑み、邪馬台国大和説を前提とする場合、本番組に関わる報道姿勢として以下の点が問題になると考えます。

(1) 公共放送としての中立性をやや損なっていないか。

少し古い調査ですが、2007年3月17日に放映された貴局のテレビ番組「その時歴史は動いた」で「邪馬台国はどこか～近畿説 VS 九州説」が放映されました。このとき、番組放映中の中程と終わりの方の2回にわたり、視聴者調査を行いました。全国で60%強の人々が九州説を支持していました。(1回目66.7%、2回目62.4%)

また、近年では2011年7月16日に早稲田大学で「邪馬台国研究大会」(全国歴史研究会主催)が開かれ、大会に参加した人約330名から挙手アンケートを採った結果も、九州説賛同者が6割程度、畿内説の賛同者が4割弱程度でした。

2018年現在の確かな数値は不明ですが、大まかな傾向として九州説支持者がかなりの多数を占めるという事実を踏まえた場合、邪馬台国大和説を前提とした報道姿勢は公共放送の中立性の観点から問題とならないか、懸念を覚えます。

(2) 公共放送としての公平性をやや損なっていないか。

番組コメンテーターとして大和説を唱える学者の先生だけを採用するのは、公共放送として公平性に欠けていると思われます。九州説を唱える、或いは大和説を否定する立場の学者の先生も、多数おられます。双方の立場を発言する機会を提供せず、邪馬台国大和説を前提に番組を進める姿勢はアンフェアではないか、危惧を覚えます。

(3) 報道内容の真実性への事前検証が甘くないか。

・商業主義的観点からすれば、巨大古墳との関連で邪馬台国大和説がアピールし、視聴者の興味を惹くとお考えになるのは理解できますが、畿内を中心とする権威ある考古学者の見解の是非判断を十分に行わず、これをそのまま番組に流すのは、公共放送のあり方として非常に疑問を覚えます。

これまで、朝日新聞社が邪馬台国大和説を熱心に報道しておりますが、朝日新聞社の場合、疑念を感じたら購読者は購読をやめるという選択を行うことができます。しかし、公共放送である NHK 殿の場合、視聴者は報道内容に疑念を覚えても、視聴を中止し料金支払いを止めるという選択はできません。それゆえ、NHK 殿におかれましては、報道内容の真実性を十分に吟味する責務は、他のマスコミ機関よりも重いものがあると考えます。

本番組においては、邪馬台国大和説への事前検証が十分に行われていたか、非常に疑念を覚える次第です。

具体的な話を申し上げますと、近年の邪馬台国大和説は次の 2 つの論拠に基づいています。

論拠①

古墳時代の開始は従来 300 年頃とされてきました。しかし、1989 年に纏向にある石塚古墳・勝山古墳の築造が、これらの遺跡の周濠から出土した木材が年輪年代測定法により 200 年頃と判定されたことにより、古墳時代の始まりが通説より 100 年も繰り上がり、箸墓古墳の築造も 250～270 年まで遡る可能性が出てきた事を踏まえ、近年、畿内の考古学者を中心に邪馬台国纏向説が盛んに展開されてきました。

しかし、同手法の基礎データは公開されておらず、日本の古代の年輪年代法は、信頼性の検証は難しいという指摘が各方面から為されており、根拠が極めて曖昧な状況にあります。

論拠②

2009 年 5 月、国立歴史民俗博物館は、箸墓古墳周辺で出土した土器の付着炭化物（おコゲやす）が炭素 14 年代測定法により、出土した布留 0 式土器の年代は西暦 240 年～260 年

になるとの報告を行いました。これを受けて邪馬台国纏向説が更に注目を受けることになりました。しかし、同報告は科学的根拠に問題があり以下の批判を各方面から受けています。

・土器附着炭化物を試料とした年代測定は、同じ時期のクルミや炭よりも古く出るので試料として適していない。

・そもそも、弥生末から古墳初期の時代は、炭素 14 年代測定法の較正曲線に「平坦部」や「うねり」があり、原理的に 80 年以下の精度を求めることはできないはずなのに、240 年～260 年のピンポイントに絞り込むのはおかしい。

・纏向地域にあるホケノ山古墳出土の小枝試料の炭素 14 年代測定は、4 世紀を中心とする年代を示しており箸墓古墳から出土の桃の種も同測定法では 4 世紀のデータが出てます。

邪馬台国大和説を唱える考古学の権威の方々は、素人目から見ても、正確な科学的根拠に立脚しない虚構の論理を展開しているように見受けられます。

また、仮に邪馬台国が纏向にあったとした場合、**箸墓古墳に埋葬された倭トトヒ百襲姫が卑弥呼と同一人物と見なされます**。しかし、以下の点で、これは魏志倭人伝や日本書紀などの文献的史実と明らかに矛盾する結果が生じます。

- ① 百襲姫は第 7 代孝霊天皇の単なる皇女だが卑弥呼は「親魏倭王」の金印まで受領した倭国王である。
- ② 卑弥呼は「倭国大乱」の動乱の中から倭国王として共立された。百襲姫にはそのような史実はない。
- ③ 百襲姫は三輪山の物主の妻になったが、卑弥呼は終生独身とされていた。
- ④ 百襲姫が活躍した第 10 代崇神天皇の時代に国内を二分する戦いの記録は無い。これに対し卑弥呼は狗奴国と交戦状態となっていた。
- ⑤ 卑弥呼には男弟がいて国政を補佐していたが、百襲姫と同時代の崇神天皇は弟ではない。

科学的根拠に疑念が持たれ、文献的史実とも明らかに矛盾する邪馬台国纏向説を、深く検証することなく、考古学権威の主張を前提として番組を編集する貴局の姿勢に非常に懸念を覚える次第です。もし、後々纏向説が公式に否定された場合、どのような言い訳をするのでしょうか。

5. 私どもは、「邪馬台国九州説に立った報道をするべきだ！」等の乱暴な意見を申し上げるつもりは毛頭ありません。しかし、公共性と良識を備えた極めて質の高い放送局として、NHK 殿には、十分な内部検証を踏まえ、中立性、公平性を担保して、邪馬台国問題を扱って頂く事を強く切望いたします。正しい歴史の姿を、これから日本を背負ってゆく子供たちに伝えてゆくことは、日本人として大切な責務と考えます。

ご多忙の中時間は急ぎませんが、本件に対する貴局の基本方針を文書でご回答賜れば幸いです。貴局の良識あるご対応をお待ちしております。

敬具

平成 30 年 2 月 10 日

邪馬台国の会

会長、理事一同